

令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



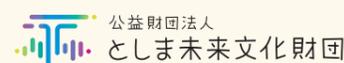
架け橋プロジェクト 2021

実施レポート

公益財団法人としま未来文化財団

企画・発行：公益財団法人としま未来文化財団
企画制作部 事業企画第1課 事業企画グループ
発行日：2022年3月22日

助成：令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。





こどもとアートの 架け橋プロジェクト 2021

はじめに

本プロジェクトは、創造性を育み、子どもたち一人一人の心理的な居場所となる

「アート」と、「子ども」との『架け橋』を創出するプロジェクトです。

豊島区内の様々な施設を活用し、気軽にアートに触れられる場を提供するほか

子どもたちに向けてダイレクトにアプローチする体験活動を展開しています。

2021年度「子どもとアートの架け橋プロジェクト」の取組みを

多くの方に知っていただき、次なるステップへ対話を広げていけたらと願い

本レポートを作成しました。

としま未来文化財団では「誰一人取り残さない」SDGsの理念に基づき

新たな対話や共感から、地域の様々な人と連携し、この取組みを発展させて参ります。

3-4p

乳幼児向け芸術ワークショップ
親と子のアートサロン 0.1.2.のおもちゃ箱



5-6p

子ども・若者支援機関連携事業
丸シールであそぼう!



7-8p

区内児童施設等連携事業
オリジナルのボールペンをつくろう!



9-12p

小学生向け芸術ワークショップ
こどもアートサーカス2021



13-14p

2021年度の実施を終えて(まとめ)

親と子のアートサロン お い っ ち に 0.1.2.のおもちゃ箱 —世界はステキな出会いに溢れている—



▶目的・ねらい

0歳からのアート体験。「世界はステキな出会いに溢れている」を合言葉に0歳からの小さな人たちへ、たくさんの出会いの広場をつくっていくこと目指しています。演劇・人形劇・音楽・舞踊などの様々なジャンルのアーティストを迎え、赤ちゃんと一緒に心と空間の中、芸術や子育てについて思いをはせ、語れる場を提供しています。

▶2021年度の実施について

リズムに合わせて音楽を感じるワークショップ・体の動きをつかいコミュニケーションを交わす身体表現ワークショップ・大人も見たことのないような様々な楽器から、ファンタジックな世界観を味わえる音楽鑑賞など、「五感で楽しめる」という部分を大切にしながら実施しました。

昨年度から続くコロナ禍においても、外出が難しい赤ちゃんや保護者が同じ年頃の子ども達に出会う機会を創出すべく、徹底した感染症対策の上ワークショップを行いました。

対策の一環として参加人数を絞っていることもありますが、毎回申込開始直後に定員が満杯となるため、コロナ禍でも変わらぬニーズの高さが伺えます。



▶2021年度の事業概要

おとみくと音の旅 —楽器の島をめぐる!—(写真A)

- 日時 2021/7/19(月) ①10:45~11:25 ②13:15~13:55
- 会場 としま区民センター 多目的ホール
- 参加対象・人数 ①12~18か月 ②6~11か月 各回10組20名
- 料金(1組) 500円
- 参加アーティスト 音楽ワークショップ・アーティスト おとみく

からだのこぼれでおしゃべりしよう!

—ゆったりのんびり親子ワークショップ—(写真B)

- 日時 2021/9/30(木) ①10:30~11:10 ②14:00~14:40
- 会場 雑司が谷公園 丘の上テラス 集会室
- 参加対象・人数 ①12~24か月 ②3~12か月 各回6組12名
- 料金(1組) 500円
- 参加アーティスト はらだまほ(パフォーマー/振付家)

ロバの音楽座「ポロンポロン」※中止となりました

- 日時 2022/3/4(金) ①11:00~11:45 ②13:30~14:15
- 会場 としま区民センター 小ホール
- 参加対象・人数 0から2歳(0か月~36か月未満)の乳幼児と保護者
※1組につき3名まで入場可 各回20組60名
- 料金(1組) 1,500円
- 参加アーティスト ロバの音楽座



- 主催 公益財団法人としま未来文化財団
- 共催 豊島区
- 助成 令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
- 宣伝美術 創作工房よだか舎

参加者の声

大きな動きをする場面で子供が楽しそうにしていたよかったです!

素敵な音に母も癒されました。ありがとうございました。

みんなでゆったりとした時間を過ごせたことが印象的でした。

今回のような参加型コンサートにまた行きたいです。

今日のイベントがとても楽しかった。あつというまに終わってしまったので、もう少し長くやって欲しい!

▶これまでの「乳幼児向け芸術ワークショップ」の取り組み

- 2018年度 日本児童・青少年演劇劇団協同組合ベビーシアタープロジェクトと3ヵ年計画を立ち上げ、共催にて初開催。
2月 「親と子のアートサロン」@ぞうしがや こどもステーション
- 2019年度 9・10月 「親子であそぼ!ワークショップ・親子で観よう!ベビーミニシアター」@ぞうしがやこどもステーション
2月 「親子であそぼ!ワークショップ・親子で観よう!ベビーシアター」@としま区民センター
- 2020年度 10月 青空ワークショップ「ゆったりのんびりわらべうた」@自由学園明日館
11月 ベビーミニシアター「マ・ブニュカ!」@自由学園明日館
1月 床の上ワークショップ「ゆったりのんびりわらべうた」@雑司ヶ谷公園 丘の上テラス
1月 ベビーミニシアター「まる」@雑司ヶ谷公園 丘の上テラス



2020年度の様子

丸シールであそぼう！ きみもシールでアーティスト！



▶目的・ねらい

本事業は、経済的格差や家庭環境によって生じる文化的体験機会の差を少なくし、文化芸術を通して生み出される居場所や創造性を育むことを目的としてスタートしました。鑑賞事業へのご招待のほか、アーティストが身近に感じられるよう、日常空間にも直接体験の機会を届ける取組みを展開しています。

▶2021年度の実施について

本年は、丸シールアートの魅力をより多くの子どもたちに届けることを目的としました。昨年に引き続き「アートキット」の配布を行うとともに、放課後児童施設でワークショップを実施しました。昨年度の実施を覚えてくれた子からは再会を喜ぶ声もいただきました。応募のあった全213作品を丸シールアーティストの大村雪乃さんの手によってひとつの作品にまとめていただき、子どもたちには出来上がった作品を挿絵として使用したカレンダーをプレゼントしました。本事業でのワークショップは初めての実施となりましたが、作品の出来上がる過程や子どもたちが丸シールアートに夢中になる様子を直接みる事ができました。



▶2021年度の事業概要

ワークショップ

■日時・会場	2021/12/15(水)	15:45~16:45	子どもスキップ仰高
	2021/12/16(木)	15:30~16:30	子どもスキップ高松
	2021/12/17(金)	15:30~16:30	子どもスキップ豊成
	2021/12/21(火)	15:30~16:30	子どもスキップ池袋本町
	2021/12/22(水)	15:30~16:30	子どもスキップ池袋第一
	2021/12/24(金)	15:30~17:00	新大塚みんなの広場

■参加人数 小学生・146名

■料金 無料

■参加アーティスト 大村雪乃(丸シールアーティスト)

※子どもスキップとは学校施設を活用して、小学生を対象とする育成事業と学童クラブを総合的に展開する豊島区の事業・施設



工作キット配布・作品募集

- 日時 2021年12月
- 会場 各家庭 ※認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークを通して地域の子どもたちに「アートキット」を配布。
- 参加人数 (配布)300セット(応募)67作品(23件)
- 料金 無料
- 参加アーティスト 大村雪乃

こどもたち×アーティスト「丸シールであそぼう！」展示

- 日時・会場 2022/4/26(火)~2022/5/9(月)
WACCA IKEBUKURO アートスペース(予定)
- 料金 無料
- 参加アーティスト 大村雪乃



アーティストとのコラボレーション作品(A4出力版)とその作品を使用したカレンダーを送付

- 主催 公益財団法人としま未来文化財団
- 助成 令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
- 連携 豊島区教育委員会事務局 教育部 放課後対策課、新大塚みんなの広場実行委員会、認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

参加者の声

丸シールでべたべたはるのがたのしかった。

親子で何かをつくることはなかなかなく、しかもカレンダーにもらえるなんて本当にたのしかったです！

もっとまるしーるでいろいろなさくひんをつくりたいです。

銀河を再現してみた

息子と楽しみながら出来ました。

上手にできた。

▶これまでの「子ども、若者支援機関連携事業」の取り組み

- 2018年度 豊島区内の子ども食堂・無料学習支援団体等との連携により、出張ミニコンサートの開催、鑑賞事業へのご招待をスタート。
「みんなの音楽」出張ミニコンサート
10月「椎名町子ども食堂ミニコンサート~口笛とピアノで奏でるハーモニー~」
@椎名町子ども食堂 金剛院 蓮華堂
- 2019年度 12月「クリスマス ミニコンサート ~あたたかで華やかな5色の金管楽器の響き~」@中高生ジャンプ東池袋 ホール
通年 鑑賞公演(音楽・演劇)ご招待(14公演・120名参加)
- 2020年度 新型コロナウイルスの影響により「アートキット」の配布(250セット)、アーティストとのコラボレーション作品制作、記念品(エコバック)制作、展示(9ヶ所)を実施。



2020年度の記念品(エコバック)

オリジナルの ボールペンをつくろう!



▶目的・ねらい

放課後の時間を活用した、楽しく遊びながらの芸術活動を通し、子どもたちの創造力とコミュニケーション能力の育成を促すとともに、心豊かに育まれる文化環境の創出を目指しています。また、家庭環境等により公募型では^{すく}掘りきれない文化芸術体験機会の少ない子どもにも直接的にアプローチし、体験の場を提供する事も重要な要素として位置付けています。具体的には、区内の学童施設等にアーティストの派遣や作品創作の機会の提供を行なっています。

▶2021年度の実施について

「区内児童施設連携事業」では子どもスキップに出向き造形ワークショップを実施しました。本年は、絵の具の使用を念頭に造形作家の志村リョウ氏と内容を組み立て、石塑粘土を使ったオリジナル・ボールペンを2日間かけてつくるプログラムとしました。2日間の実施となる事で、子どもたちの集中力に適した無理のない時間配分、さらに子どもたち・アーティスト・スタッフ間でよりよいコミュニケーションが生まれました。制作のポイントなどをアーティストの視点で子どもたちに直接伝えることができ、アウトリーチならではのプログラムとなりました。



▶2021年度の事業概要

■日時・会場

①2022/1/17(月)、1/20(木) 15:30~16:30 子どもスキップ朝日

②2022/3/10(木)、3/17(木) 15:30~16:30 子どもスキップ駒込 ※中止となりました

■参加人数 ①18名 ②14名

■料金 無料

■参加アーティスト 志村リョウ(造形作家)



■主催 公益財団法人としま未来文化財団
■助成 令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
■連携 豊島区教育委員会事務局 教育部 放課後対策課

職員の声 子どもスキップ

二日間にわたって行ったことで、子どもたちも自分のペンの出来栄にとってもわくわくしていた。これまで気づかなかった子どもの得意分野や新たな一面を発見できたことがとてもうれしかった。保護者にもとても喜んでもらった。毎回、様々なことを企画して頂き、ありがたい限りです。私たちだけでは、出来ない遊びや、造形等、を子どもたちにたくさん体験させていただき感謝いたします。ちょっと離れて子どもたちの姿を見ることが出来、発見と別の考えで接していくことの大切さを改めて感じました。

▶これまでの「区内児童施設等連携事業」の取り組み

放課後の小学生を対象とした演劇ワークショップのほか、職員向けワークショップを実施。

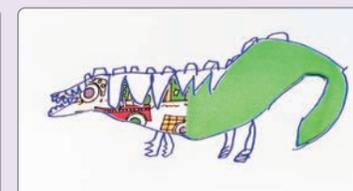
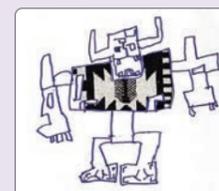
※主な内容 〈職員向け〉日常の遊びの中に演劇的手法を生かすための演劇WS

〈子ども向け〉ジェスチャーゲーム・おばけを作ろう・拍手のリレー ほか

- 2017年度 一般財団法人地域創造と連携したリージョナルシアター事業としてスタート。
9・10月 職員向けワークショップ としま南池袋ミーティングルーム・南池袋小学校PCルーム
9・10月 子どもスキップ朝日・池袋本町・南池袋
- 2018年度 財団での単独開催となる。
8月 子どもスキップ目白・長崎・仰高・駒込・高松 5か所
- 2019年度 7月 職員向けワークショップ としま南池袋ミーティングルーム
8月 子どもスキップ清和・巣鴨・西巣鴨・さくら 4か所
- 2020年度 新型コロナウイルスの影響により、WEB上に「街」をつくる「きえかえカードをつくろう!! ~おいでよみんなのきせかえWEBタウン~」(74作品)を実施。



2019年度の様子



2020年度の作品

こどもアートサーカス 2021

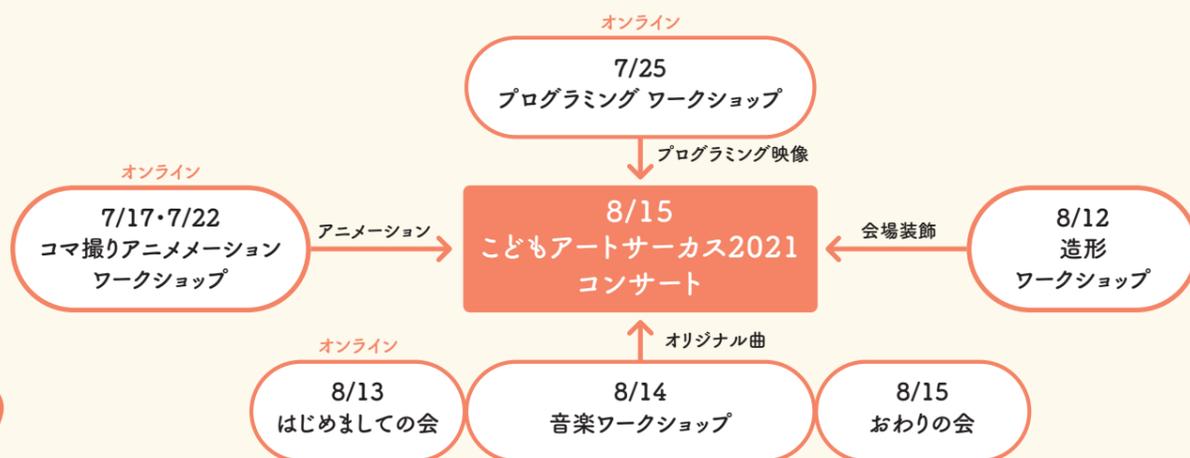


目的・ねらい

「こどもアートサーカス」は、子どもたちが学校や習い事とは別の場所で、アートに出会い体験する場です。アートの世界に誘ってくれるアーティストや、同世代の仲間たちと一緒に楽しい時間を過ごす中で、「好き」「得意」を見つけ、創造力・表現力・発想力・コミュニケーション力を磨きながら、健やかな身体と感性豊かな心を育ててほしいと願っています。

2021年度の実施について

今年のテーマは、「オンラインでも、リアルでも。どっちも楽しい、こどもアートサーカス!」。オンラインでは、コマ撮りアニメーションとプログラミングのワークショップを実施。現地開催では、版画や切り絵のワークショップ、音楽ワークショップを実施しました。各ワークショップで生まれた作品は、最終日のコンサートで音楽とコラボレーションしたり、装飾として会場を彩りました。



2021年度の事業概要〈ワークショップ〉

コマ撮りアニメーション

コマ撮りアニメーションをつくろう

自由に考えたキャラクターを、身近な材料で工作したあと、ストップモーション・アプリでコマ撮り撮影に挑戦しました。

- A1 小学1~3年生の部**
■日時 7/17日(土)10:30~15:00
■対象 小学1~3年生
- A2 小学3~6年生の部**
■日時 7/22(木・祝)10:30~15:30
■対象 小学3~6年生
- 会場 オンライン
- 人数 各回10名
- 料金 参加費 1,000円+撮影キット 2,000円
※昨年参加され、撮影キットをお持ちの方は参加費のみ
- 参加アーティスト 古国府 薫(アニメーション映像作家)
片山なのあ(イラストレーター)



造形

サーカス小屋の装飾をつくろう

C1 版画で自分だけのキャラクターをつくろう

いろいろなパーツを組み合わせて、サーカスに登場するキャラクターの版画をつくりました。

- 日時 8/12(木) 11:00~12:30
- 対象 小学1~6年生
- 参加アーティスト BlockingWood(版画家)
〈アーティスト集団C-DEPOT〉

C2 切り絵でサーカス小屋を彩ろう

色とりどりの紙を切り抜いて、サーカスに登場する動物をつくって会場を彩りました。

- 日時 8/12(木) 15:00~17:00
- 対象 小学1~6年生
- 参加アーティスト 津村仁美(切り絵アーティスト)
〈アーティスト集団 C-DEPOT〉

- 会場 しま区民センター 多目的ホール
- 人数 各回20名
- 料金 1,000円



プログラミング

きみも入団!ビスケット・プログラミングサーカス団

自分が描いた絵でプログラミングができるViscuit(ビスケット)を使って、動くサーカスパフォーマンスを作りました。

- B1 小学1~4年生の部**
■日時 7/25(日)10:30~12:00
■対象 小学1~4年生
- B2 4~6歳の部**
■日時 7/25(日)13:00~14:00
■対象 4~6歳の未就学児
- B3 小学3~6年生の部**
■日時 7/25(日)15:00~17:00
■対象 小学3~6年生
- 会場 オンライン
- 人数 各回12名
- 料金 500円
- 参加アーティスト 原田はかせ
(合同会社デジタルポケット)



音楽

ワークショップ 音楽deサーカス!

あやしいサーカス団の音楽家たちと作戦会議をしたり、みんなが生み出す音やリズムで遊んだりしながらサーカスの音楽をつくります。

- 日時 8/13(金) 14:00~15:00 はじめましての会@zoom
8/14(土) 14:00~16:00 ワークショップ
8/15(日) 15:00~16:45 コンサート鑑賞
16:45~17:15 おわりの会
- 対象 小学1~6年生
- 会場 オンライン(8/13)
しま区民センター 多目的ホール(8/14・15)
- 人数 25名
- 料金 1,000円 ※「こどもアートサーカス2021コンサート」チケット付
- 参加アーティスト 中川賢一(ピアノ)、野村誠(鍵盤ハーモニカ)
鵜木絵里(ソプラノ)、野尻小矢佳(打楽器)
福島青衣子(ハープ)



▶2021年度の事業概要〈コンサート〉

こどもアートサーカス2021 コンサート

あやしいサーカス団の音楽家たちが、世界各地のエッセンスが詰まったいろいろな音楽を届けてくれました。巨大モニターに映し出されるプログラミング映像、コマ撮りアニメーションと演奏のコラボレーションも大成功。音楽と映像による素敵な世界観を体感できるコンサートとなりました。

- 日時 8月15日(日)15:00開演(14:30開場、16:45終演)
- 会場 としま区民センター 多目的ホール
- 人数 138人
- 出演 中川賢一(ピアノ)、野村誠(鍵盤ハーモニカ)、鶴木絵里(ソプラノ)
野尻小矢佳(打楽器)、福島青衣子(ハープ)
- ステージ・イラストレーション 古国府薫(アニメーション映像作家・ディレクター)
Beáta Kolbašovská(メディアアーティスト)

- 対象 2歳以上
- 料金 大人1,000円、小学生以下500円
- 全席自由

7日間の記録とコマ撮りアニメーション
作品はこちらからご覧いただけます



■主催 公益財団法人としま未来文化財団・豊島区 ■助成 一般財団法人地域創造、令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

児童と保護者の声

コマ撮りアニメーション

いつも恥ずかしがりやであまり積極的になれない息子ですが、初めてのコマ撮りはそれを超える楽しさがあったようで、大大満足でした!2作目、3作目のアイデアをいろいろ考え、早くやりたいと。他のお子様の作品も拝見し、子供の発想をカタチにしていただける素晴らしいWSでした。
(保護者)

娘が楽しんで参加できたのが良かったです。双方向でやりとりすることが当たり前になって、親としてはすごい時代になったと実感していました。来年もぜひ参加させていただきたいです。
(保護者)

造形

初めての版画でした。みどり色のぞうを作って、新しいぞうを作りました。お手玉を追加してサーカスの雰囲気になりました。楽しかったです。
(参加児童)

家ではなかなかやれない内容だったので、新鮮で楽しく参加できました。技法が学べたのが良かったです。
(保護者)

こどもアートサーカス2021 コンサート

いろんなことがあっておもしろかった。野村先生のお鼻がとれたり、きれいな歌とかがあったり、あとすもうとかおもしろかった。
(参加児童)

異国の民謡は初めてで新しい体験でした。子どもに良かったです。
(保護者)

プログラミング

今日は、楽しいWSをありがとうございました。娘は、学校で少しプログラミングの授業を受けていましたが、今日のWSでは、さらに複雑な動きを学ぶことができ、楽しかったと喜んでいました。親の私も、「プログラミング」=「難しい」と思っていたのですが、興味をそそる様な組み立て方に感動しました!また、少人数のグループで学べたことにより、更に理解を深めることができました。今後もこの様なWSがあると嬉しいです。
(保護者)

一昨年に続き2度目の参加でしたが、短時間でも濃い内容で子供の満足度も高かったです。オンラインでのグループワークも子供には新鮮だったようで、現地での参加と違う楽しみ方ができました。
(保護者)

音楽

アートを「知る」「作る」「遊ぶ」を体験し、アートの可能性、自由さを知ることができたかと思います。
(保護者)

いろいろなお歌がつけたりしてよかった。(先生方の真剣な演奏と子どもたちが、ゲラゲラ笑ったり、わくわくして聴いている様子はなかなか他にないものだと思います。)コンサートから日が経っていますがあやしい国の国歌を歌って遊んでいます!コンサート前日もとても楽しみにしている様子でした。
(参加児童と保護者)

たのしかったです。ガムランがピアノでできてたのがきれいでした。すもうかわいかった。夜中までの練習おつかれさまでした。
(参加児童)

ワークショップの作品がとてもかわいかったです。世界の音楽を子どもにきかせることができ、とても良かったです。ありがとうございました。
(保護者)

▶これまでの「子ども、若者支援機関連携事業」の取り組み

- 2014年度～ 豊島区補助金事業として、豊島区在住・在学の小学生を対象とした芸術体験プログラムを開始。
- 2018年度 音楽中心の舞台芸術を体験しながら自己表現の方法を学ぶプログラムとして開催。
- 2019年度 「夏休みこどもアートサーカス」として夏休み6日間の体験プログラムに再編。プログラミング、美術、身体表現、伝統芸能、音楽の5ジャンルを実施。(延べ580名参加)
- 2020年度 新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン形式で「コマ撮りアニメーション」と「音楽」のワークショップを実施。(延べ187名参加) ミニアニメーション映画を制作しYouTubeで公開。

2021年度の実施を終えて

アーティストの声

親子のアートサロン0.1.2.のおもちゃ箱 川中さん(山の音楽舎)



「ベイベーシアターを全ての子どもたちに!」を掲げる私たちと、「世界はステキな出会いに溢れている」を合言葉とするとき未来文化財団が出会い、本事業がスタートしました。そこから4年間共に学び、企画から準備、きめ細やかな参加者への気配りなど、万全の制作体制に、感謝と感動の連続でした。特にコロナ禍での開催では、はじめは心許ない感じがした保護者の方々が、帰りには顔がほころび、落ち着きを取り戻したような様子に、感慨深いものがありました。全国に先駆けてベイベーシアターに取り組んでくださったことも、ベイベーシアターアーティストにとって大きな自信となっています。夢は「ベイベーシアターで街作り」。『0.1.2.のおもちゃ箱』で育った親子が、次の世代を育てる側に回っていく、そんな循環型の仕組みを作ることができるのは、地元を根ざした文化財団だからこそ!継続は力なり。皆さまとのこれまではそんな広がり“種”ができる瞬間を実感した取り組みでした。これからも、共に広がりを生み出すパートナーとして、よろしくお願ひします。
※ベイベーシアターとは、赤ちゃんとおとなと一緒に楽しむ舞台芸術です。

丸シールであそぼう! 大村雪乃さん(丸シールアーティスト)

今回は宇宙という壮大なテーマを選んだので、どのような作品が届いてくるかとても楽しみにしていました。そして届いた作品の多くは、表現することに対する「喜び」や「楽しみ」そして未来に対する「期待」が詰まっているように感じられました。

大人になってからも表現することの楽しさを維持することは実はとても困難です。大人になってしまった私は、作品一つ一つから学ぶことばかりでした。制作された方は「創造する楽しさ」をこれからも忘れずに、アートだけでなくさまざまな分野で創造を楽しんでください。



オリジナルのボールペンをつくろう! 志村リョウさん(造形作家)



どんな作品にするの?と聞くと、「カラフルなアイスをたくさん乗せたい。かわいいウサギにしたい。火を吹くタイプのドラゴンを作りたい」と、みんなしっかりと目的を持って一生懸命に制作をしていた姿が印象的でした。想像して、カタチを作り、色を塗る。0→1を作り出す経験。それは自主性や個性を育てる上でとても大切なことだと考えます。今回のワークショップがそんな経験の一つになれたらいいなと感じております。

子どもアートサーカス2021 中川賢一さん(ピアニスト)

今回もあやしいサーカス団の皆さんのパワーがはじけ飛んだワークショップ、コンサートになったと思います。コロナの状況下でなかなか直に体験することができない中で、打楽器のワークショップから始まり、即興演奏、みんなでアイデアを出し合って「あやしい国」のオリジナル“国歌”を作ることまで出来たりなど、クリエイティブな時間を一緒に過ごすことが出来ました!コンサートは様々な国を音楽で旅したり、コマ撮りアニメワークショップの作品やViscuitプログラミングワークショップの作品とのコラボレーションをすることも出来ました。様々な分野との交流は子供たちにとって素敵な心に残る思い出となったことでしょうか!お世話になりましたスタッフの皆様本当にありがとうございました!



©Shuhei NEZU

制作スタッフの声



今回参加していただいたアーティストが参加者の作品を見て「エネルギーが爆発している!」と仰っていたことが印象に残りました。本事業を通して、未知のインスピレーションから物を作り出す楽しさや、表現をする事の楽しさを届けられたらと思っています。また、人生の糧を見つける時のヒントとなるような、さらに言えば、子どもたちの新たな可能性の扉を開くような機会となれば嬉しいです。そのために(当たり前)に思えて、難しい事なのですが)これからも参加した方々が集中し、また時にはリラックスしながら取り組める環境をつくりたいと思います。(御子柴)



「子どもアートサーカス2021」を担当しました。コロナ禍に初めて直面した昨年は、オンラインワークショップという新たな試みに四苦八苦ながらも、ステイホームの子ども達にアート体験の機会を届けることができました。この経験で得られた成果は、今年度の事業制作にも活かすことができました。制作現場を取り巻く日々のめまぐるしい状況変化はしばらく続くかもしれません。そういった中であっても、制作スタッフとして柔軟に対応できるだけの発想力や想像力を磨きながら、子ども達に寄り添う事業を絶やすことなく実施していきたいと思っています。(宮本)



今年度初めて「0.1.2.のおもちゃ箱」の担当スタッフとして事業に携わりました。0歳からの子どもたちが、見えるもの聞こえるものすべてに興味を持ち、きらきらした目でアーティストを見つめる姿に心が洗われました。また同時に、日ごろ子どもたちと真剣に向き合い、だからこそ多くの悩みを抱えている保護者の皆さんの葛藤も垣間見えました。子どもたちと共にアートを通じて心をほぐし、同じ立場にいる他の参加者と会話ができる機会は、きっと保護者の方たちにとっても大切だと感じています。そういった場を、このコロナ禍でも安全に提供できるよう、今後もスタッフとして努めていきたいです。(櫻井)



今年も続くコロナ禍でコミュニケーションの希薄化が危惧される中、参加した時間に温かさを感じていただけるような場づくりを心がけました。赤ちゃん向けの事業では、保護者の方に日常と離れた時間にちょっとでもふっとうしていただけるよう、会場の設えやプログラム構成を工夫しました。小学生向け事業では生活に制限のある子ども達に、正解のない楽しさを一緒に楽しみ、いつもと違う刺激を提供できたように思います。今後も、ほんの少しでもその時の温かさが記憶に残り、ふとした時に勇気や優しさや自信につながるような事業を続けていきたいと思っています。(草ヶ谷)



子どもたちのまわりにはコロナをはじめ、多くの社会課題が山積しています。巷にはありとあらゆる情報が溢れ、子どもにとって何が正解なのか親子で答えを探す日々が続いているのではないのでしょうか。そんな時、必要とされるのが文化芸術の力です。芸術体験はアーティストとの対話や交流を通して、多様な価値観やまなざしを育み、子どもたちひとり一人が自分だけの答えを見つけるために、なくてはならないものだと考えています。コロナ禍によって、文化芸術の在り方も意義も問い直される中、柔軟な姿勢と新しいアイデアで、常に挑戦し続け、子どもたちがアーティストと出会う場を、今後もつくり続けていきます。(小笠原)